



かけはし



「かけはし」発刊にあたり



㈱ジェイエイエゆり葬祭センター
代表取締役

畠山 勝一

弊社は今年で設立十九年目を迎えます。これもひとえに、みどりの会員の皆様をはじめ、関係各位のご指導の賜物であり、衷心より感謝を申し上げます。

さて、この度弊社の活動を知っていただくため広報誌「かけはし」を発刊することになりました。情報を発信しながら地域の皆様とともに葬送文化を築いてまいりたいと存じます。

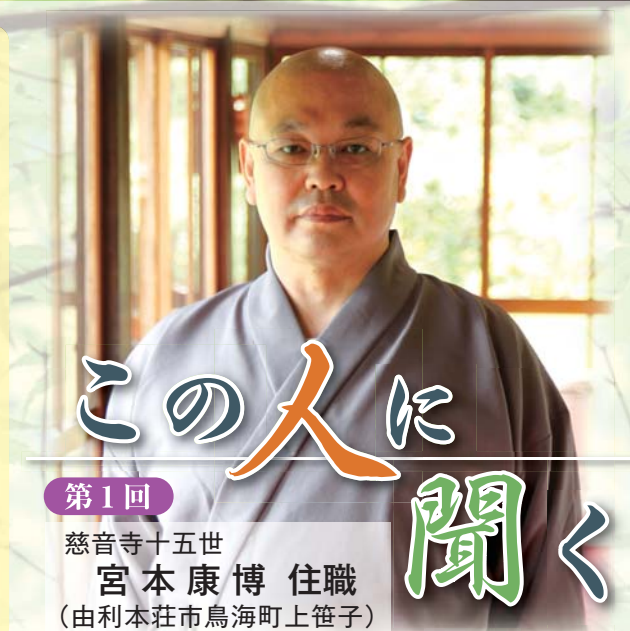
二〇一〇年国勢調査によると秋田県の高齢化率（総人口に占める六十五歳以上の高齢者の割合）は29.6%で初めて全国で最も高くなりました。これは世界に類をみない加速であります。また、人口減少率でも全国最大になっており、こうした背景により葬儀を取り巻く環境も大きく変化していくことと思われます。私どもは地域に信頼される葬祭業者としてこれからは温もりあふれる心のセレモニーをお手伝いしてまいります。

今後、より一層お役に立てるよう、役員一同努力してまいりますので、よろしくごお願い申し上げます。

この人に聞く

第1回

慈音寺十五世
宮本康博 住職
(由利本荘市鳥海町上笹子)



最近、「葬式は、うるなう」(島田裕巳著)の書籍がベストセラーになり、都会を中心に火葬だけで済ませてしまう「直葬(ちよくそう)」が増えています。家族に迷惑はかけたくないという気持ちで葬儀を簡素化することはどうなのか。親しくさせて頂いている住職にお話を伺いました。



ご 住職ご自身もお身内の葬儀経験があるそうですが、先代のご住職は随分前に亡くなられたのですか。

「昭和59年7月30日。当時私は横浜の西有寺で修行中でした。母が先生をしていた関係で両親がそろって旅行するのは初めてのことがあったと思います。お寺に訪れ、『息子をよ

ろしく願います』と挨拶した翌日のことです。病ひとつ無かった父が心筋梗塞による急逝でした。私は25歳、父は56歳の時でした。」



つる 然のごことでご苦労されたのではないのでしょうか。

「家の大事な大黒柱を失ったと同時に檀家さんをどう守っていくか。葬儀のしきたり・風習も全く違う中、自分ひとりでは何もできない。教区のお寺さんや特にお寺の親類である法類の協力、檀家さんの励ましなど、周りの援助のありがたさを身に染みて感じました。あらためてご縁を大切にしなければと思いましたが。」



縁 といえば、最近よく「無縁社会」という言葉が聞かれますが。

「NHKがつくった造語です。以前は供養していただけない死者のことを無縁と呼んでおりました。しかし、現代の無縁は生きているうちから自分で繋がりを自ら切った結果、孤独死を招いているのです。」



私 達の地域でもそうした傾向はありますか。

「都会ほどではないにしても傾向はあります。ひとつは地縁。となり近所の付き合いのことです。仕事の形態が変わり、就業時間が24時間体制により、家族でさえいつ仕事に行き、帰って来たのか分からない。ましてやとなりであつても顔を合わせることはありません。次に血縁。正月礼、盆礼といったものがなくなり、親戚の間を歩き来ることが減っています。葬儀の時でなければ家と家の関係を意識することがなくなっています。最後に社縁。会社勤めのうちは仕事の繋がりに支えられていますが退職と同時に付き合いも途絶えてしまいます。せめてもの救いはこの地域に互助の精神が残っていることでしょうか。」



確 かに葬儀や法事の際はあらためて親戚の関係を意識しますね。葬式を行うということはどういったことなのでしょうか。

「葬式というのは自分の命の繋がりを確認する場であり、故人の生き様やお徳をしっかりと

「葬式というのは自分の命の繋がりを確認する場であり、

故人の生き様やお徳をしっかりと受け止める大事な行持です。」

受け止める大事な行持です。最近の葬儀軽視は残念なことです。昔は亡くなった人の旅支度をみんなの手を掛けたものです。大切な人を送り出さなければならぬという思いが嘆き悲しみ涙を流す。そうした体験が人間の尊厳を確認し、人にも優しくなれるのだと思います。

私たちはともすれば目に見えるものは大事にし、見えないものは粗末にする傾向があります。花が美しく咲くためには地中に張り巡らされた根が必要です。私たちにとつての根つことはご先祖様です。ご先祖様を守ることという事は脈々と受け継いだ命を守ることであり自分の命を大切にすることなのです。また、他人の幸せを祈ることが巡り巡って自分の命を守ることになります。」

経

済的な理由で費用を縮小することはあってもなぜ葬儀が必要かをきちんとお話ししていかなければなりません。さてご住職は自殺予防の活動もされていると伺いましたが。

「秋田県は自殺者数が17年間連続ワースト1位。由利本荘市は毎年上位です。自分たちでできることをやっという『オープンハート・オコジョ』という民間団体が活動しています。昨年はメンバーでCDを作成しました。

「相手の立場に立って寄り添うという姿勢が大切です。辛抱強く傾聴する」のです。」

「親からもらった尊い命

自分だけのものじゃない

つらいときには悩まずに

まずは話そう話してみよう」

今年も踊りの振り付けを加え、各種団体の行事でリラククス体操として取り入れていきます。メイドイン鳥海で、振付師は小学生の女の子ふたりをはじめ、すべて鳥海の人達が関わっています。体を動かすことでこの活動に参加しているという意識を持ってもらえればと願っています。

また、自殺予防と共に自死家族のグリーフケア。つまり、大切な人を亡くし大きな悲嘆（グリーフ）を感じている人に対するサポートにも取り組んでいます。」

葬

儀業界でもグリーフケアの観点からお客様に接していこうという動きがありますが、私たちにできることは何でしょうか。

「自分の価値観で相手に意見を言うのではなく相手の立場に立って寄り添うという姿勢が

大切です。心に秘めている苦しみを辛抱強く傾聴することです。また、私たちの活動では、同じような経験をされた方達の集いを開いています。ただただ泣かれて帰る方もいます。それでもいいのです。語り合うことで救われていることを感じています。」

21

世紀は心の時代とも言われています。今後のご活躍をご期待いたします。

「お寺は24時間 年中無休で門戸を開いています。お寺は命の源であるご先祖様が休まれている場所なので、手を合わせ心の会話をしたいと思っています。」



初棚について



◆お盆とは

仏教の盂蘭盆会を略したもので語源は梵語の「ウランバナ」で地獄の責め苦から救うという意味があります。餓鬼に墜ちて苦しんでいる弟子の母をお釈迦様が供養して救うことができたという故事が始まりとされています。

◆お盆の期間

秋田では、「月おくれ盆」といって、8月に行われます。8月7日を「七か日」として仏様を迎え、8月13日から16日（または15日）に精霊を送る風習になっています。精霊棚は12日の夕刻までにお飾りとお供えを済ませましょう。

（出典：「秋田の仏事」大坂高昭著）

◆キュウリ馬とナス牛

精霊棚にはキュウリで作った馬とナスで作った牛が飾られます。これは「ご先祖様が帰って来る時は馬に乗って早く、帰りは牛でゆっくりと」という気持ちで込められています。季節の作物を上手に使った、趣のあるお話ですね。

初棚の飾り方（参考）



※地域、宗派によっては、飾らない所もあります。

家族で写真撮ってますか？

最後に家族そろって写真を撮ったのはいつですか。これだけ皆がカメラを持つ時代に、家族が並んで一緒に写真を撮る機会は少なくなっていないですか。

震災の映像で、家族を失い家も流され何もなくなってしまったけれど、奇跡的に写真が見つかり、涙を流している姿がありました。思い出は消えることはありません。しかし、面影は時とともに薄らいでいくものではないでしょうか。たった1枚の写真が、生きる力となることもあるのだと感じました。

家族写真。何かの節目でなくてもいいのです。平凡な今日の日が、かけがえのない1日になるかも

しれません。照れくさからず、家族の写真残していきたいものです。

※家族・個人に関わらず写真を撮ってほしいとご希望される方はご連絡ください。プロではありませんが撮影にお伺いいたします。但し、当社「みどりの会」会員・もしくはご入会をご希望される方に限定させていただきます。

担当・佐藤まで (☎090-4880-1097)



虹のホールゆり

クリンリネス・コンテスト

最優秀賞受賞

全県のJA葬祭グループが実施している第3回JA葬祭クリンリネス・コンテストに於いて、当社「虹のホールゆり」が見事、最優秀賞を受賞しました。このコンテストは、JA葬祭各ホール施設内外の整理整頓、清掃の状況やスタッフの接客態度を評価するもので、県内16ホールを予備審査し、後日、その中から上位5ホールを抜き打ち審査した結果です。審査員から「清掃が行き届き、接客もすばらしかった。」とコメントを頂きました。

JA葬祭連絡協議会総会の席上、表彰を受けた支配人 石垣学は、「評価を受けて大変うれしく思っております。今後とも、ご来館のお客様に気持ちよく過ごして頂けるように、館内外の整理整頓・清掃に努め、接客態度の向上を目指してまいります。」と抱負を語ってくれました。

お客様の声

おしつけなく、こちらの希望に
応えて頂き、大
変有り難く思
いました。

〈T様〉

葬儀にあたって、
こと細かく出来
ない事をやって
いただき感謝し
ております。

〈A様〉

葬儀のやり方な
ど良く説明して
くださり誠にあ
りがとうござい
ました。今後の
法要などの説明
まで大変有り難
いと思います。

〈I様〉

「人形供養祭」のご案内

とき 平成24年 9月16日(日)

ところ 虹のホールゆり

参加無料 誰にでも参加できます

受付／午前9時～11時
供養祭／午前11時30分～

集記 編後



先日、友人から父が亡くなったと連絡を受けました。心臓発作による急逝。ご家族は途方にくれた様子でした。

そんな中、玄関で深々と頭を下げて挨拶する中学生のお孫さん達が印象的であり、「あのおじいさんにしてこのお孫さん達あり」と一家の日頃の様子が目に浮かびました。

突然の出来事に喪主となる友人も不安が多かったことでしょう。また、お孫さん達にとっては、いつもの場所におじいちゃんが居ないことは、どれほど辛いことだろうか。何かできることはないかと考え、色紙を用意し、「これにお手紙を書いて、折鶴を作ってほしい」とお願いしました。

故人はたくさん鶴に抱かれて出棺いたしました。ご家族の気持ち、きつと届いてくれたものと信じています。

「かけはし」創刊号はいかがでしたでしょうか。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。(正)

葬儀式場

厳かな式をまごころのサービスで演出し、温もりの伝わるご葬儀をとり行ないます。



● **施設ご利用のご案内**

平成18年12月にオープンした「虹のホールゆり」は、皆様に支えられて今年で6年目を迎えました。式場の収容人数は120名・最大250名で、各宗教・宗派に対応いたします。ご遺体の安置からご葬儀および会食まで、すべてに対応できる施設となっております。また、忌明け法要から年忌法要までご利用いただけます。「温もりあふれる心のセレモニー」をモットーにお客様の不安な気持ちを和らげるよう、専門のスタッフが費用の相談や式の進行をサポートいたします。

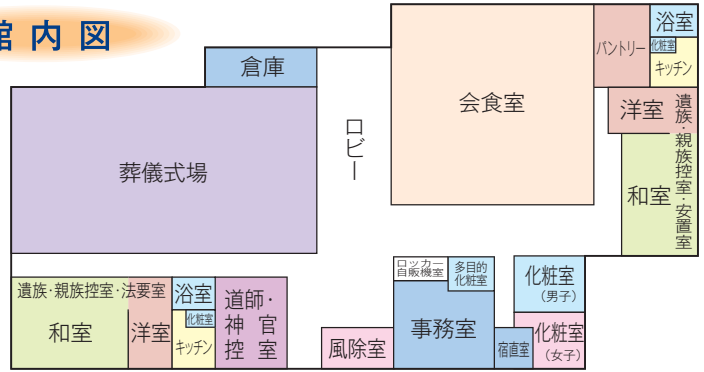
ホール ご利用の ご案内

虹のホール ゆり

施設概要

- 葬儀式場 120名
- 会食室 70名
- 遺族・親族控室（法要・安置も可） 2室（キッチン・浴室付）
- 導師・神官控室 1室
- 多目的化粧室 1室
- 駐車場 60台

館内図



ロビー

広い空間で、ご会葬の皆様にご利用いただけます。

● **安心してご利用いただくために
ご相談・ご見学をお受けしております**

式場や安置室の見学、ご葬儀の流れ・ご予算などを事前に検討しておくこと、安心に繋がります。随時お受けしておりますので、虹のホールゆりへお気軽にお越しください。



遺族・親族控室・法要室



浴室



キッチン

ご遺族やご親族の方々のために、お通夜当日からご利用いただける、遺族・親族控室を完備しております。少しでも負担をご軽減するために必要な設備を整えました。ご遺族の仮眠も可能です。

JA葬祭みどりの会 会員特典

入会金10,000円を支払っていただきますと、月々の会費なしの終身会員となります。また、ご家族（同居）であればどなた様でも下記の特典を利用いただけます。

特典1

ご葬儀の祭壇貸出料金の20%引き

祭壇貸出料金7万円以上の場合20%引き、貸出がない場合は、他商品で15,000円引き(ただし会葬品等を利用した場合)

祭壇貸出価格	会員価格(税込)
120,750円	96,600円
105,000円	84,000円
73,500円	58,800円

例

特典2

花環・生花・盛籠を会員価格で



花環
¥12,000
会員価格
¥10,000



花環
¥14,000
会員価格
¥12,000



生花
¥20,000
会員価格
¥19,000



缶詰籠
¥15,750
会員価格
¥14,500



タオル盛籠
¥21,000
会員価格
¥19,000

特典3

仏具を会員価格で

《新扇9号 黒》

例 15,300円 → 13,800円 (税込)



特典4

ホール祭壇コース料金の15%引き

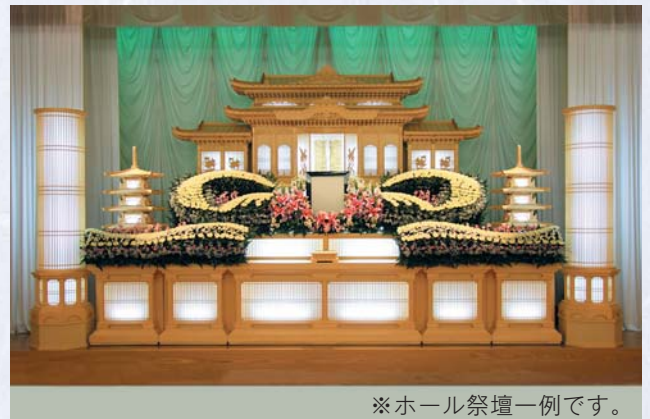
《シルク祭壇コース》315,000円 → 267,750円 (税込)

《神道祭壇コース》210,000円 → 178,500円 (税込)

《近代祭壇コース》210,000円 → 178,500円 (税込)

《生花祭壇コース》367,500円より → 312,375円より (税込)

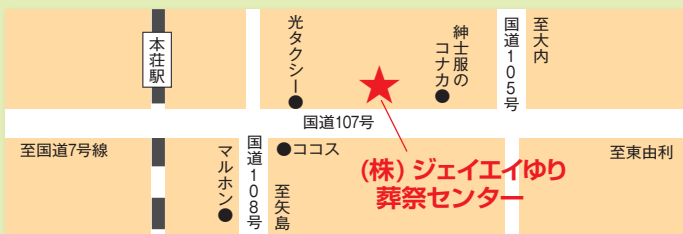
例



※ホール祭壇一例です。

特典5

ホール祭壇コース利用時は
自宅祭壇貸出料金を50%引き



(株)ジェイエイゆり葬祭センター

本店 / 〒015-0852 由利本荘市一番堰200-1

0120-2468-08

☎ 27-1718 FAX 27-1715

メールアドレス: jayurisousai@clock.ocn.ne.jp

JA葬祭 虹のホールゆり

由利本荘市川口字八幡前41-1

☎ 23-7716 FAX 23-7717

仁賀保営業所

にかほ市平沢字宮田37-1

☎ 62-8171 FAX 62-8172

年中無休・24時間受付